

# 1 旅行業法及びこれに基づく命令

以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 法第1条(目的)の条文の  の中に入る語句の組み合わせで正しいものはどれか。

この法律は、旅行業等を営む者について登録制度を実施し、あわせて旅行業等を営む者の  ① を確保するとともに、その組織する団体の適正な活動を促進することにより、旅行業務に関する取引の  ②、旅行の  ③ 及び旅行者の  ④ を図ることを目的とする。

- ア. ①業務の適正な運営 — ②活性化 — ③円滑な実施 — ④利便の増進
- イ. ①業務の適正な運営 — ②公正の維持 — ③安全の確保 — ④利便の増進
- ウ. ①適正な利潤 — ②公正の維持 — ③安全の確保 — ④保護
- エ. ①適正な利潤 — ②活性化 — ③円滑な実施 — ④保護

(2) 次の行為のうち、報酬を得て事業として行う場合、旅行業等の登録を受けることを要しないものはどれか。

- ア. バス会社が自社のバスを使用し、他人の経営するホテルを利用して宿泊を伴う旅行を実施する行為
- イ. 航空会社が、系列の旅行業者の実施する企画旅行(参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。)について、当該旅行業者を代理して旅行者と契約を締結する行為
- ウ. 観光案内所が旅行者からの依頼により、宿泊施設の予約をし、当該旅行者から手数料を収受する行為
- エ. コンビニエンスストアが船会社を代理して、その乗船券を販売する行為

(3) 旅行業等の登録に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 新たに第1種旅行業を営もうとする者は、国土交通大臣に新規登録の申請をしなければならない。
- イ. 第2種旅行業者がその登録の有効期間満了の後引き続き第2種旅行業を営もうとするときは、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に有効期間の更新の登録の申請をしなければならない。
- ウ. 企画旅行(参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。)を実施する第3種旅行業を営もうとする者は、国土交通大臣に新規登録の申請をしなければならない。
- エ. 旅行業者代理業を営もうとする者は、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に新規登録の申請をしなければならない。

(4) 登録業務範囲に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

(いずれも、国内旅行業務取扱管理者のみを選任している営業所において取り扱っているものとする。)

- ア. 第2種旅行業者は、本邦内の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）並びに本邦内及び本邦外の企画旅行（旅行者からの依頼により旅行に関する計画を作成し、これにより実施するものに限る。）を実施することができる。
- イ. 第2種旅行業者は、他の旅行業者が実施する本邦内及び本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）について、当該他の旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる。
- ウ. 第3種旅行業者は、本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を実施することはできないが、他の旅行業者が実施する本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）について、当該他の旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる。
- エ. 第3種旅行業者は、一の企画旅行ごとに一の自らの営業所の存する市町村の区域、これに隣接する市町村の区域及び国土交通大臣の定める区域内において実施されるものであって、旅行代金（旅行代金の20%相当額を超えない範囲内で収受することができる申込金を除く。）を旅行開始日より前に収受しない場合は、企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を実施することができる。

(5) 次の記述から、旅行業等の登録の拒否事由のみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業又は旅行業者代理業の登録を取り消され、その取消の日から5年を経過していない者
- b. 法人であって、その役員のうち登録申請の2年前に道路交通法に違反して、罰金の刑に処せられた者があるもの
- c. 申請前5年以内に旅行業務に関し不正な行為をした者
- d. 第2種旅行業を営もうとする者であって、その基準資産額が700万円であるもの

ア. a, c                      イ. a, d                      ウ. b, c                      エ. b, d

(6) 変更登録等に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第1種旅行業者が第2種旅行業への変更登録の申請をしようとするときは、国土交通大臣及びその主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録申請書を提出しなければならない。
- イ. 第2種旅行業者が第1種旅行業への変更登録の申請をしようとするときは、国土交通大臣に変更登録申請書を提出しなければならない。
- ウ. 第3種旅行業者は、その主たる営業所の所在地に変更があったときは、その日から30日以内に、変更後の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録申請書を提出しなければならない。
- エ. 旅行業者代理業者が第3種旅行業への変更登録の申請をしようとするときは、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録申請書を提出しなければならない。

(7) 営業保証金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 第2種旅行業者が供託すべき営業保証金の額は、前事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額が2億円未満である場合、1,100万円である。
- イ. 旅行業者代理業者が供託すべき営業保証金の額は、前事業年度における旅行業務に関する所属旅行業者との取引の額に応じ、国土交通省令で定めるところにより算定した額とする。
- ウ. 旅行業者は、毎事業年度終了後100日以内に、その事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額を国土交通大臣に報告しなければならない。
- エ. 旅行業者は、毎事業年度終了後において、その供託している営業保証金の額が法定の額に不足することとなるときは、その不足額を追加して供託しなければならない。

(8) 旅行業務取扱管理者の選任に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第1種旅行業者の営業所においては、その取り扱う旅行業務が本邦内の旅行のみであっても、総合旅行業務取扱管理者試験に合格した者を旅行業務取扱管理者として選任しなければならない。
- イ. 旅行業者等は、旅行業務取扱管理者として選任した者のすべてが欠けるに至ったときは、新たに旅行業務取扱管理者を選任するまでの間、当該営業所において一切の旅行業務を取り扱うことができない。
- ウ. 旅行業者等は、旅行業務取扱管理者に旅行業協会が実施する研修を受けさせること等により、旅行業務取扱管理者の職務に関し必要な知識及び能力の向上を図るよう努めなければならない。
- エ. 旅行業務取扱管理者は、旅行契約の締結に際し、所定の様式による旅行業務取扱管理者の証明書を必ず提示しなければならない。

(9) 次の記述から、旅行業務取扱管理者の職務として法令で定められているものをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 法第12条の6の規定による外務員の証明書携帯及び提示に関する事項
- b. 法第12条の7及び法第12条の8の規定による広告に関する事項
- c. 旅行に関する苦情の処理に関する事項
- d. 法第12条の2第3項の規定による旅行業約款の掲示及び備置きに関する事項

ア. a, b, c      イ. a, b, d      ウ. a, c, d      エ. b, c, d

(10) 旅行業務の取扱いの料金（企画旅行に係るものを除く。）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行業務の取扱いの料金を変更したときは、登録行政庁に対し、その旨を遅滞なく届け出なければならない。
- イ. 旅行業者は、事業の開始前に、旅行者から収受する旅行業務の取扱いの料金（企画旅行に係るものを除く。）を定めなければならない。
- ウ. 旅行業務の取扱いの料金は、契約の種類及び内容に応じて定率、定額その他の方法によって定められ、旅行者にとって明確でなければならない。
- エ. 旅行業者代理業者は、その営業所において、所属旅行業者が定めた旅行業務の取扱いの料金を旅行者に見やすいように掲示しなければならない。

(11) 旅行業約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 保証社員である旅行業者は、その旅行業約款に営業保証金を供託していないことを明示しておくなければならない。
- イ. 旅行業者は、現に定めている旅行業約款を標準旅行業約款と同一のものに変更するときは、国土交通大臣の認可を受けなければならない。
- ウ. 他の旅行業者を代理して企画旅行契約（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を締結することができる旅行業者にあつては、当該他の旅行業者の旅行業約款をその営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。
- エ. 旅行業約款は、少なくとも旅行業務の取扱いの料金その他の旅行者との取引に係る金銭の収受及び払戻しに関する事項並びに旅行業者の責任に関する事項が明確に定められているものでなければならない。

(12) 取引条件の説明に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約を締結しようとする場合は、旅行中の損害の補償に関する事項を説明しなければならない。
- イ. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約以外の旅行業務に関する契約（旅行に関する相談に応ずる行為に係るものを除く。）を締結しようとする場合は、旅行業務の取扱いの料金に関する事項を説明しなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約を締結しようとする場合は、企画者以外の者が企画者を代理して契約を締結する場合にあつては、その旨を説明しなければならない。
- エ. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約を締結しようとする場合は、契約の変更及び解除に関する事項について、必ず旅行業務取扱管理者が説明しなければならない。

(13) 法第12条の5（書面の交付）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、企画旅行契約を締結したときに旅行者に交付する書面において、契約の申込方法及び契約の成立に関する事項を記載しなければならない。
- イ. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約を締結した場合、旅行者に対し、当該旅行に関するサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付したときであっても、国土交通省令で定める事項を記載した書面を交付しなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、旅行者の承諾を得て、書面を交付する措置に代えて国土交通省令で定める情報通信の技術を利用する方法による措置を講ずることができる。
- エ. 旅行業者等が旅行者と手配旅行契約を締結したときは、旅行者から請求があれば、当該旅行者に対し、国土交通省令で定める事項を記載した書面又は当該旅行に関するサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付しなければならない。

(14) 外務員に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 第1種旅行業者の役員又は使用人が携帯する外務員の証明書は、国土交通大臣が、その他の旅行業者等の役員又は使用人が携帯する外務員の証明書は、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事が、それぞれ発行する。
- イ. 外務員とは、勧誘員、販売員、外交員その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、旅行業者等の役員又は使用人のうち、その営業所以外の場所でその旅行業者等のために旅行業務について取引を行う者をいう。
- ウ. 旅行業者等は、その役員又は使用人に外務員の証明書を携帯させなければ、その者を外務員としての業務に従事させてはならない。
- エ. 外務員は、その業務を行うときは、旅行者の請求の有無にかかわらず、外務員の証明書を提示しなければならない。

(15) 企画旅行の広告に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、企画者の氏名又は名称及び住所並びに登録番号を表示しなければならない。
- イ. 旅行業者等は、企画者以外の者の氏名又は名称を表示する場合にあっては、文字の大きさ等に留意して、企画者の氏名又は名称の明確性を確保しなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、旅行者が旅行業者等に支払うべき対価が企画旅行の出発日より異なる場合において、その最低額を表示するときは、併せてその最高額を表示しなければならない。
- エ. 旅行業者等は、企画旅行に旅程管理業務を行う者が同行する場合にあっては、その旨及びその者の氏名を表示しなければならない。

(16) 誇大広告の禁止に関する次の記述のうち、の中に入る語句の組み合わせで正しいものはどれか。

- a. 旅行者等の業務の範囲、①又は信用に関する事項
- b. 旅行中の旅行者の②に関する事項
- c. 感染症の発生の状況その他の旅行地における③に関する事項
- d. 旅行地における旅行者の④の確保に関する事項

- ア. ①資力 — ②苦情 — ③気象 — ④利便
- イ. ①売上 — ②負担 — ③気象 — ④安全
- ウ. ①売上 — ②苦情 — ③衛生 — ④利便
- エ. ①資力 — ②負担 — ③衛生 — ④安全

(17) 標識に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者等は、営業所において、国土交通省令で定める様式の標識を、公衆に見やすいように掲示しなければならない。
- イ. 旅行者等の標識には、その営業所の住所及び当該営業所の責任者の氏名を記載しなければならない。
- ウ. 標識の地の色は、旅行者のものにあっては青、旅行者代理業者のものにあっては白である。
- エ. 旅行者代理業者の標識には、登録番号、氏名又は名称及び登録年月日並びに有効期間を記載しなければならない。

(18) 企画旅行の円滑な実施のための措置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者は、旅行者に対し、旅行に関する計画における2人以上の旅行者が同一の日程により行動することを要する区間における円滑な旅行の実施を確保するために必要な集合時刻、集合場所その他の事項に関する指示をしなければならない。
- イ. 旅行者は、旅行に関する計画に定めるサービスの旅行者への確実な提供を確保するために旅行開始前に必要な予約その他の措置を講じなければならない。
- ウ. 旅行者は、本邦内の旅行にあっては、旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が生じたときは、いかなる場合も代替サービスの手配及び当該サービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講じなければならない。
- エ. 旅行者は、本邦外の旅行にあっては、旅行地において旅行に関する計画に定めるサービスの提供を受けるために必要な手続の実施その他の措置を講じなければならない。

(19) 旅程管理業務を行う者に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、企画旅行を実施する場合においては、必ず添乗員を同行させて旅程管理業務を行わせなければならない。
- イ. 企画旅行に複数の添乗員が同行する場合は、すべての添乗員が旅程管理業務を行う主任の者としての資格要件を満たす者（法第12条の11第1項の規定に適合する者）でなければならない。
- ウ. 旅行業者は、成年被後見人が登録研修機関が実施する旅程管理研修の課程を修了し、かつ、必要な実務の経験を有していれば、企画旅行に同行して旅程管理業務を行う主任の者に選任することができる。
- エ. 資格要件を満たす者（法第12条の11第1項の規定に適合する者）の指導による旅程管理業務に相当する実務の研修を受けた経験は、当該研修を受けた地域を目的地とする旅行に係る旅程管理業務に従事した経験とみなされる。

(20) 次の記述から、禁止行為として法令に定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者に対し、旅行地において施行されている法令に違反するサービスの提供を受けることに関し便宜を供与すること。
- b. 旅行者に対し、旅行地において特定のサービスの提供を受けることを強要する行為
- c. 旅行者に対し、特定の物品を購入することを強要する行為
- d. 営業所に掲示した旅行業務の取扱いの料金を超えて料金を収受する行為

ア. a, d                      イ. a, b, c                      ウ. a, b, c, d                      エ. b, c, d

(21) 企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を実施する旅行業者の代理（受託契約）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 受託契約において、委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる受託旅行業者又はその受託旅行業者代理業者の営業所を定めておかななければならない。
- イ. 受託旅行業者は、委託旅行業者の旅行業約款若しくは自社の旅行業約款のいずれかをその営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かななければならない。
- ウ. 第3種旅行業者は、他の旅行業者と受託契約を締結したときは、当該他の旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業の登録を受けなければならない。
- エ. 旅行業者代理業者は、所属旅行業者の承諾を得れば、他の旅行業者と直接受託契約を締結することができる。

(22) 旅行業者代理業者に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者代理業者は、その行う営業が旅行業であると誤認させ、又は所属旅行業者を誤認させるような表示、広告その他の行為をしてはならない。
- イ. 旅行業者代理業者は、自ら旅行業約款を定め、所属旅行業者の承認を得て、その営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。
- ウ. 旅行業者代理業者は、所属旅行業者が受託契約を締結している旅行業者を代理して企画旅行契約（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を締結する場合を除き、その所属旅行業者以外の旅行業者のために旅行業務を取り扱ってはならない。
- エ. 旅行業者代理業者は、旅行業務に関し取引をしようとするときは、所属旅行業者の氏名又は名称及び旅行業者代理業者である旨を取引の相手方に明示しなければならない。

(23) 登録行政庁が旅行業者等に命ずることができる措置（業務改善命令）に関する次の記述のうち、法令で定められていないものはどれか。

- ア. 旅行業務取扱管理者を解任すること。
- イ. 旅行業務の取扱いの料金又は企画旅行に関し旅行者から收受する対価を変更すること。
- ウ. 旅程管理のための措置を確実に実施すること。
- エ. 運送等サービス提供機関に生じた損害を賠償するために必要な金額を担保することができる保険契約を締結すること。

(24) 旅行業協会の業務に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業務に関する取引の公正の確保又は旅行業及び旅行業者代理業者の健全な発達を図るための調査、研究及び広報の業務を実施しなければならない。
- イ. 旅行業者等の取り扱った旅行業務に対して旅行者から申し出のあった苦情に限り、その相談に応じ、申出人に必要な助言をする等の解決の業務を実施しなければならない。
- ウ. 旅行業務取扱管理者の職務に関し必要な知識及び能力についての研修その他旅行業者等の従業者に対する旅行業務の取扱いについての研修は、社員以外の旅行業者等の従業者も受けることができるようにしなければならない。
- エ. 旅行業協会は、旅行業務に関し社員である旅行業者又は当該旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者と取引をした旅行者に対しその取引によって生じた債権に関し弁済する業務を実施しなければならない。



(25) 弁済業務保証金制度に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業協会に加入しようとする旅行者は、弁済業務規約で定める額の弁済業務保証金分担金をその加入しようとする日までに、旅行業協会に納付しなければならない。
- イ. 保証社員を所属旅行者とする旅行者代理業者と旅行業務に関し取引をした旅行者は、国土交通大臣の指定する弁済業務開始日以後、その取引によって生じた債権に関し、当該保証社員について弁済業務規約で定める弁済限度額の範囲内において、旅行業協会が供託している弁済業務保証金から弁済を受ける権利を有する。
- ウ. 旅行者は、弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付すれば、その日に営業保証金を取り戻すことができる。
- エ. 保証社員は、毎事業年度終了後においてその弁済業務保証金分担金の額が増加することとなるときはその終了の日から100日以内にその増加することとなる額の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。

〈余 白〉

## 2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

### 1. 標準旅行業約款に関する以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

#### (1) 募集型企画旅行契約の部に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 法令に反せず、かつ、旅行者の不利にならない範囲で結んだ特約は、口頭によるものであっても約款に優先して適用される。
- イ. 旅行業者は、旅行契約の履行に当たって、手配の一部に限り本邦内又は本邦外の他の旅行業者に代行させることができる。
- ウ. 旅行業者は、旅行契約の履行に当たって、本邦外の旅行に限り、手配の全部又は一部を本邦内又は本邦外の他の旅行業者に代行させることができる。
- エ. 旅行業者は、旅行契約において、旅行者が旅行業者の定める旅行日程に従って、運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように、手配し、旅程を管理することを引き受ける。

#### (2) 募集型企画旅行契約の部「契約の申込み」(第3種旅行業者である場合)に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者は、旅行契約の申込みをしようとするときは、旅行業者所定の申込書に所定の事項を記入の上、旅行代金の20%以内で旅行業者が別に定める金額の申込金とともに、旅行業者に提出しなければならない。
- イ. 旅行業者に通信契約の申込みをしようとする旅行者は、申込みをしようとする旅行の名称、旅行開始日、会員番号その他の事項を旅行業者に通知しなければならない。
- ウ. 旅行契約における申込金は、旅行代金又は取消手数料若しくは変更手数料の一部として取り扱われる。
- エ. 旅行者から旅行の参加に際し、特別な配慮を必要とする旨の申し出が契約の申込時にあったときは、旅行業者は可能な範囲内でこれに応じなければならない。

(3) 募集型企画旅行契約の部「通信契約」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、通信契約を締結しようとする場合であって、旅行者のクレジットカードが無効である等、旅行者が旅行代金等に係る債務の一部又は全部を提携会社のカード会員規約に従って決済できないときは、当該旅行者との旅行契約の締結に応じなくてよい。
- イ. 「電子承諾通知」とは、契約の申込みに対する承諾の通知であって、情報通信の技術を利用する方法のうち、旅行業者又は当該旅行業者の旅行を当該旅行業者を代理して販売する旅行業者が使用する電子計算機等と旅行者が使用する電子計算機等を接続する電気通信回線を通じて送信する方法により行うものをいう。
- ウ. 通信契約は、旅行業者が旅行契約の締結を承諾する旨の通知を旅行者に発した時に成立する。ただし、電子承諾通知を発する場合は、当該通知が旅行者に到達した時に成立する。
- エ. 「カード利用日」とは、旅行者又は旅行業者が旅行契約に基づく旅行代金等の支払い債務を履行すべき日のみをいう。

(4) 募集型企画旅行契約の部「契約書面の交付・確定書面」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行契約成立後速やかに、旅行者に、旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載した書面を交付しなければならない。
- イ. 契約書面に、確定された旅行日程、運送若しくは宿泊機関の名称を記載できないときは、当該契約書面において利用予定の宿泊機関及び表示上重要な運送機関の名称を限定して列挙した上で、当該契約書面交付後、旅行開始日の前日（旅行開始日の前日から起算してさかのぼって7日目に当たる日以降に旅行契約の申込みがなされた場合にあつては、旅行開始日）までの当該契約書面に定める日まで、これらの確定状況を記載した書面を交付しなければならない。
- ウ. 確定書面を交付した場合には、旅行業者が当該旅行契約により手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、当該確定書面に記載するところに特定される。
- エ. 手配状況の確認を希望する旅行者からの問い合わせについては、それが契約書面に定めた確定書面交付前であった場合は、旅行業者は回答をしなくてよい。

(5) 募集型企画旅行契約の部「契約の変更」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、天災地変、戦乱その他の旅行業者の関与し得ない事由が生じた場合において、旅行の安全かつ円滑な実施を図るためやむを得ないときは、旅行者にあらかじめ速やかに当該事由が関与し得ないものである理由及び当該事由との因果関係を説明して、旅行日程、旅行サービスの内容その他の旅行契約の内容を変更することができる。
- イ. 国内の旅行契約を締結していた旅行者から、旅行開始日の前日から起算して30日目に当たる日より前に旅行契約上の地位を第三者に譲り渡したい旨の申し出があったときは、旅行業者は、必ず、それに応じなければならない。
- ウ. 契約書面に利用予定として記載していた宿泊施設が、過剰予約受付をしたため利用できなくなり他の宿泊施設に変更した場合、旅行の実施に要する費用が増加したとしても、旅行業者は、旅行代金の額を増加することはできない。
- エ. 旅行業者は、運送・宿泊機関等の利用人員により旅行代金が異なる旨を契約書面に記載した場合において、旅行契約の成立後に旅行業者の責に帰すべき事由によらず当該利用人員が変更になったときは、旅行代金の額を変更することができる。

- (6) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の解除権」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ア. 運送機関の適用運賃・料金が著しい経済情勢の変化等により、旅行の募集の際に明示した時点において有効なものとして公示されている適用運賃・料金に比べて、通常想定される程度を大幅に超えて増額されたため、その増額された金額の範囲内で旅行代金が増額された場合、旅行者は、旅行開始前に取消料を支払うことなく旅行契約を解除することができる。
  - イ. 旅行業者が旅行者に対し、契約書面に定める日までに、確定書面を交付しなかった場合、旅行者は、旅行開始前に取消料を支払うことなく旅行契約を解除することができる。
  - ウ. 旅行者の一親等の親族が死亡した場合、旅行者は、旅行開始前に取消料を支払うことなく旅行契約を解除することができる。
  - エ. 旅行目的地において大地震が発生したため、旅行の安全かつ円滑な実施が不可能となるおそれが極めて大きい場合、旅行者は旅行開始前に取消料を支払うことなく旅行契約を解除することができる。
- (7) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の解除権等－旅行開始前の解除」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ア. 旅行契約において、旅行者が契約書面に記載の期日までに旅行代金を支払わないときは、旅行業者は、当該期日の翌日において旅行者が旅行契約を解除したものとする。この場合において、旅行者は、旅行業者に取消料に相当する額の違約料を支払わなければならない。
  - イ. 旅行契約を締結した旅行者が、契約内容に関し合理的な範囲を超える負担を求めたときは、旅行業者は、理由を説明することなく、当該旅行者との旅行契約を解除することができる。
  - ウ. 天災地変等の旅行業者の関与し得ない事由により、旅行の安全かつ円滑な実施が不可能となるおそれが極めて大きいため、旅行業者が旅行開始前に旅行契約を解除した場合、利用予定の運送・宿泊機関等から取消料・違約料の請求があったときは、それを旅行者の負担とすることができる。
  - エ. 旅行業者は、宿泊を伴う国内旅行において、旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員に達しなかったことにより旅行契約を解除しようとするときは、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって、20日目に当たる日より前に、旅行を中止する旨を旅行者に通知しなければならない。
- (8) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の解除権－旅行開始後の解除」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- ア. 旅行業者は、旅行者が病気のため旅行の継続に耐えられないときは、旅行者に理由を説明して旅行契約の一部を解除することができる。
  - イ. 旅行業者は、官公署の命令により、旅行の継続が不可能となったときは、旅行者に説明することなく、旅行契約の一部を解除することができる。
  - ウ. 旅行業者は、運送機関の旅行サービス提供の中止等、当該旅行業者の関与し得ない事由が生じた場合であって、旅行の継続が不可能となったときは、旅行者に説明して、旅行契約の一部を解除することができる。
  - エ. 旅行業者は、旅行者が旅行を安全かつ円滑に実施するための添乗員の指示に従わないなど団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げるときは、旅行者に説明して、旅行契約の一部を解除することができる。

(9) 募集型企画旅行契約の部「旅行代金の払戻し」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行開始後に、旅行業者の過失により契約書面に記載した旅行日程に従った旅行の実施が不可能となったため、旅行者が旅行契約を解除した場合において、旅行業者が、旅行者に払い戻すべき金額を所定の期日までに払い戻したときは、旅行者は旅行業者に対する損害賠償請求権を行使することはできない。
- イ. 旅行者が旅行開始後において旅行を安全かつ円滑に実施するための添乗員の指示に従わず団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げたため、旅行業者が旅行契約を解除した場合においては、旅行者がいまだ提供を受けていない旅行サービスがあっても、旅行業者は、当該旅行サービスに係る部分に係る金額を払戻ししなくてよい。
- ウ. 宿泊機関の利用人員により旅行代金が異なる旨を契約書面に記載した場合において、旅行契約の成立後に旅行業者の責に帰すべき事由によらず、宿泊機関の利用人員が増加したため旅行代金の額が減少し、旅行者に払い戻すべき金額が生じた。この場合、旅行業者は、契約書面に記載した旅行終了日の翌日から起算して7日以内に当該金額を旅行者に払い戻さなければならない。
- エ. 契約書面に記載のあった宿泊機関が、契約書面に記載のない宿泊機関に変更されたため、旅行者が旅行開始前に契約を解除した場合、旅行者に対し払い戻すべき金額が生じたときは、旅行業者は、解除の翌日から起算して7日以内に当該金額を払い戻さなければならない。

(10) 募集型企画旅行契約の部「旅程管理」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅程管理業務を他の旅行業者に代行させる旨を契約書面において明示した場合は、旅行業者は旅程管理責任を免れることができる。
- イ. 旅行者は、旅行開始後旅行終了までの間において、団体で行動するときは、旅行を安全かつ円滑に実施するための旅行業者の指示に従わなければならない。
- ウ. 添乗員その他の者が旅程管理業務その他旅行に付随して旅行業者が必要と認める業務に従事する時間帯は、原則として8時から22時までである。
- エ. 旅行業者は、旅行中の旅行者が、疾病、傷害等により保護を要する状態にあると認めるときは、必要な措置を講ずることがある。この場合において、これが当該旅行業者の責に帰すべき事由によるものでないときであっても、当該措置に要した費用は旅行業者の負担となる。

(11) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の責任」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行契約の履行に当たって、過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、その過失が重大なものでなければ、旅行者1名につき15万円を限度として賠償する。
- イ. 旅行業者は、国内の旅行契約の履行に当たって、過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、損害発生の翌日から起算して10日以内に旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責任を負う。
- ウ. 旅行業者は、旅行契約の履行に当たって、手配代行者が過失により旅行者に損害を与えた場合であっても、当該旅行業者に過失がないときは、その損害を賠償する責任を負わない。
- エ. 旅行業者は、旅行者が運送機関の運送サービス提供の中止により損害を被ったときは、いかなる場合においてもその損害を賠償する責任を負うものではない。

(12) 募集型企画旅行契約の部、受注型企画旅行契約の部「特別補償」及び「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行日程に、旅行者が旅行業者の手配に係る運送・宿泊機関等のサービスの提供を一切受けない日が定められている場合において、その旨及び当該日に生じた事故によって旅行者が被った損害に対し特別補償規程による補償金及び見舞金の支払いが行われないう旨を契約書面に明示したときでも、当該日に旅行者が事故に遭いその身体上に損害を被ったときは、旅行業者は、旅行者に特別補償規程による補償金及び見舞金を支払わなければならない。
- イ. 旅行業者は、旅行参加中の旅行者を対象として、別途の旅行代金を収受して当該旅行業者が実施する旅行に参加中の旅行者の身体の上に、一定の損害が発生した場合においては、主たる旅行契約に基づく補償金及び見舞金と別途の旅行契約に基づく補償金及び見舞金を支払わなければならない。
- ウ. 旅行業者は、旅行業者の責任が生ずるか否かを問わず、別紙特別補償規程で定めるところにより、旅行者が旅行参加中にその生命、身体又は手荷物の上に被った一定の損害について、あらかじめ定める額の補償金及び見舞金を支払う。
- エ. 旅行業者は、入院見舞金を支払った後に、後遺障害補償金を支払うこととなったときは、支払うべき後遺障害補償金の金額から既に支払った入院見舞金の金額を控除した額を支払う。

(13) 募集型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 利用航空会社が過剰予約受付をしたため、旅行業者は旅行開始日を1日遅らせることにして、旅行者にその旨を通知したところ、一部の旅行者がそれを理由に旅行契約を解除した。この場合、旅行業者は当該旅行者にも所定の変更補償金を支払わなければならない。
- イ. 旅行業者は、変更補償金を支払うこととなったときは、旅行終了日の翌日から起算して30日以内に支払わなければならない。
- ウ. 旅行業者は、変更補償金を支払った後に、当該変更について旅行業者の故意又は過失による責任が発生することが明らかになった場合には、当該変更に係る変更補償金とは別に旅行業者が支払うべき損害賠償金を支払わなければならない。
- エ. 確定書面に利用予定として記載していた宿泊施設が過剰予約受付をしたため、契約書面に記載のなかった他の宿泊施設に変更になることを旅行開始日の受付時に添乗員が旅行者に通知した場合、当該通知は、旅行開始前になされたものとして取り扱われる。

(14) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の責任」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者は、旅行開始後において、契約書面に記載された旅行サービスを円滑に受領するため、万が一契約書面と異なる旅行サービスが提供されたと認識したときは、旅行終了後、速やかに旅行業者に申し出なければならない。
- b. 旅行者の過失により旅行業者が損害を被った場合でも、その過失が重大なものでないときは、当該旅行者はその損害を賠償しなくてよい。
- c. 旅行者は、旅行契約を締結するに際しては、旅行業者から提供された情報を活用し、旅行者の権利義務その他の旅行契約の内容について理解するよう努めなければならない。
- d. 旅行者が故意に旅行業者に損害を与えたときは、当該旅行者はその損害を賠償しなければならない。

ア. a, b                      イ. a, c                      ウ. b, d                      エ. c, d

(15) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行契約において、旅行者が旅行業者の定める旅行日程に従って、旅行サービスの提供を受けることができるように、手配することのみを引き受ける。
- イ. 企画書面に記載された企画の内容に関し、旅行業者に旅行契約の申込みをしようとする旅行者は、旅行業者所定の申込書に所定の事項を記入の上、旅行業者が別に定める金額の申込金とともに提出しなければならない。
- ウ. 旅行者は、旅行業者に対し、旅行日程、旅行サービスの内容その他の旅行契約の内容を変更するよう求めることができるが、この場合において、旅行業者は、可能な限り旅行者の求めに応じなければならない。
- エ. 旅行業者は、企画書面において企画料金の金額を明示した場合は、当該金額を契約書面に明示しなければならない。

(16) 受注型企画旅行契約の部「団体・グループ契約」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、特約を結んだ場合を除き、契約責任者はその団体・グループを構成する旅行者の旅行契約の締結に関する一切の代理権を有しているものとみなし、当該団体・グループに係る旅行業務に関する取引は、当該契約責任者との間で行う。
- イ. 契約責任者は、旅行業者が定める日までに、団体・グループを構成する旅行者の名簿を旅行業者に提出しなければならない。
- ウ. 旅行業者は、契約責任者が団体・グループを構成する旅行者に対して現に負い、又は将来負うことが予測される債務又は義務についても責任を負う。
- エ. 旅行業者は、契約責任者が団体・グループに同行しない場合、旅行開始後においては、あらかじめ契約責任者が選任した団体・グループを構成する旅行者を契約責任者とみなす。



(17) 募集型企画旅行契約の部、受注型企画旅行契約の部「別紙特別補償規程」に関する企画旅行の「サービスの提供を受けることを完了した時」の定めについて次の記述のうち、誤っているものはどれか。(なお、添乗員等による解散の告知は行われない場合とする。)

- ア. 最後の運送・宿泊機関等が、航空機であるときは、乗客のみが入場できる飛行場構内からの退場時
- イ. 最後の運送・宿泊機関等が、船舶であるときは、下船時
- ウ. 最後の運送・宿泊機関等が、貸切バスであるときは、降車時
- エ. 最後の運送・宿泊機関等が、宿泊機関であるときは、チェックアウト手続の終了時

(18) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 「手配旅行契約」とは、旅行業者が旅行者の委託により、旅行者のために代理、媒介又は取次をすること等により、旅行者が運送・宿泊機関等の提供する旅行サービスの提供を受けることができるように、手配することを引き受ける契約をいう。
- イ. 旅行業者が、旅行者から依頼のあった宿泊機関の手配を善良な管理者の注意をもって行ったが、満員のため当該宿泊機関との間で宿泊サービスの提供をする契約を締結できなかった場合、旅行者は旅行業者に対して所定の旅行業務取扱料金を支払わなくてよい。
- ウ. 旅行者は、旅行業者の責に帰すべき事由により旅行サービスの手配が不可能になったときは旅行契約を解除することができる。その場合、旅行者が既にその提供を受けた旅行サービスの対価として、運送・宿泊機関等に対して既に支払い、又はこれから支払わなければならない費用は、旅行者の負担とすることができる。
- エ. 旅行業者は、当該旅行業者が旅行サービスを手配するために、運送・宿泊機関等に対して支払った費用で旅行者の負担に帰すべきもの及び取扱料金の額が、旅行代金として既に収受した金額に満たないときは、旅行終了後、速やかに旅行者にその差額を払い戻さなければならない。

(19) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、書面による特約をもって、申込金の支払いを受けることなく、契約の締結の承諾のみにより旅行契約を成立させることがあるが、この場合において旅行契約の成立時期は、当該書面において明らかにしなければならない。
- イ. 旅行業者は、旅行業者が手配するすべての旅行サービスについて乗車券類、宿泊券その他の旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付するときは、所定の事項を記載した契約書面を交付しないことがある。
- ウ. 旅行業者は、旅行開始前において、運送・宿泊機関等の運賃・料金の改訂、為替相場の変動その他の事由により旅行代金の変動を生じた場合は、当該旅行代金を変更することができる。この場合において、旅行代金の増加の負担は旅行者に、減少の利益は旅行業者に帰属する。
- エ. 旅行者の求めにより旅行契約内容を変更する場合、旅行者は、既に完了した手配を取り消す際に運送・宿泊機関等に支払うべき取消料、違約料その他の手配の変更に要する費用を負担するほか、旅行業者に対し、所定の変更手続料金を支払わなければならない。

(20) 旅行相談契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 契約を締結しようとする旅行者は、旅行業者所定の申込書に所定の事項を記入の上、旅行業者が別に定める金額の申込金とともに、旅行業者に提出しなければならない。
- イ. 旅行に必要な経費の見積りを行うことは、契約の業務の1つである。
- ウ. 旅行業者は、旅行者の相談内容が公序良俗に反しているおそれがあるものであるときは、契約の締結に応じなくてよい。
- エ. 旅行業者が契約に基づく業務を行ったときは、旅行者は、旅行業者に対し、旅行業者が定める期日までに、旅行業者所定の相談料金を支払わなければならない。

## 2. 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅客は、バス会社の運転者、車掌その他の係員が運送の安全確保と車内秩序の維持のために行う職務上の指示に従わなければならない。
- イ. 運送契約は、バス会社が乗車券を契約責任者に交付したときに成立する。
- ウ. 運送契約の成立後において、契約責任者が運送申込書に記載した事項を変更しようとするときは、緊急の場合及びバス会社の認める場合を除き、あらかじめ書面によりバス会社の承諾を求めなければならない。
- エ. バス会社は、当該バス会社の自動車の運行によって、旅客の生命又は身体を害した場合は、その損害が車内において生じたときに限り損害を賠償する責に任じる。

## 3. フェリー標準運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. フェリー会社は、営業所において所定の運賃及び料金を収受し、これと引き換えに乗船券を発行する。
- イ. フェリー会社は、気象又は海象が船舶の航行に危険を及ぼすおそれがある場合、予定していた船便の発航を中止し、既に締結した契約を解除することができる。
- ウ. フェリー会社は、特別急行料金を収受する船便が、当該船便の所定の所要時間以内でフェリー会社が定める時間以上遅延して到着した場合において、旅客が特別急行料金の払戻しの請求をしたときは、フェリー会社が定める額の手数料の支払いを受け、収受した特別急行料金を払い戻す。
- エ. 旅客は、船室に持ち込んだ手回り品を自己の責任において保管しなければならない。

#### 4. 国内旅客運送約款（日本航空、全日空）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 航空券は、旅客が有効期間の満了する日までに搭乗しなければ無効となり、航空会社は、有効期間の満了する日以降において旅客運賃または料金の払戻しに応じない。
- イ. 旅客は、座席予約の取消申出の際は、航空券または航空引換証を呈示しなければならない。
- ウ. 幼児については、無料手荷物許容量の適用はない。
- エ. 航空会社は、持込手荷物その他の旅客が携行しまたは装着するものの破壊、滅失、紛失または毀損の場合に発生する損害については、航空会社またはその使用人に過失があったことが証明された場合にのみ賠償の責に任じる。

#### 5. JR旅客営業規則に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 鉄道の大人の団体旅客運賃は、その全行程に対する1人当り大人普通旅客運賃から割引額を差し引いた額をは数整理し、これに団体旅客運賃の収受人員を乗じた額とする。
- イ. グリーン料金、寝台料金とも、小児料金は大人料金の半額である。
- ウ. 指定券を必要とする小口団体（旅客車専用扱の団体及びその他特別の手配をして運送する団体を除く。）には、指定保証金を収受することを条件としてその運送の引受けがなされる。
- エ. 旅客の運送等の契約は、所定の運賃・料金を支払い、乗車券類等の交付を受けた時に成立する。ただし、その成立について別段の意思表示があった場合を除く。

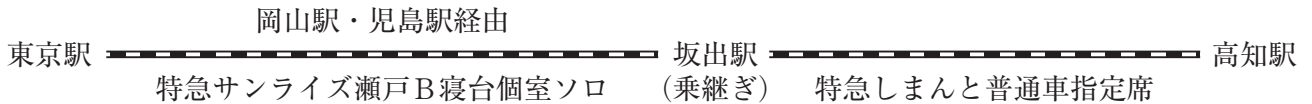
#### 6. モデル宿泊約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 宿泊客がフロントに預けた現金及び貴重品については、当ホテル（館）が、その種類及び価額の明告を求めた場合に、宿泊客がそれを行わなければ、当ホテル（館）は、その損害を賠償しない。
- イ. 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品が当ホテル（館）に置き忘れられていた場合で、所有者の指示がないとき又は所有者が判明しないときは、当ホテル（館）は、発見日を含め7日間保管し、その後最寄りの警察署に届ける。
- ウ. 宿泊客が当ホテル（館）の駐車場を利用する場合、当ホテル（館）は車両のキーの寄託の如何にかかわらず、車両の管理責任を負わないが、駐車場の管理に当たり、当ホテル（館）の故意又は過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じる。
- エ. 宿泊客の故意又は過失により当ホテル（館）が損害を被ったときは、当該宿泊客は当ホテル（館）に対し、その損害を賠償しなければならない。

### 3 国内旅行実務

1. 通常期に大人1名がJRを利用して次の行程で旅行を実施した。  
行程及び資料に基づき、次の設問について該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

#### 〈行程〉



- (注) 坂出駅では到着当日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。  
また、乗車券、特急券、寝台券は旅行開始前に一括して購入するものとする。

#### 〈資料〉

##### 〈JRの運賃(距離)〉

東京駅	—	岡山駅	営業キロ	732.9km
岡山駅	—	児島駅	営業キロ	27.8km
児島駅	—	高知駅	営業キロ	151.5km

##### 本州3社内の幹線の普通運賃表

営業キロ	片道運賃
141～160km	2,520円
761～800km	10,500円
881～920km	11,340円

##### JR四国内の加算額

境界駅からの営業キロ	加算額
121～180km	240円

(児島駅～宇多津駅間の加算運賃100円を含む。)

##### 〈JRの通常期料金〉

東京駅	—	坂出駅 (在来線特急普通車指定席)	3,660円
東京駅	—	坂出駅 (B寝台個室ソロ)	6,300円
坂出駅	—	高知駅 (在来線特急普通車指定席)	2,290円

(1) 運賃算出方法で正しいものはどれか。

ア.  $732.9 + 27.8 + 151.5 = 912.2\text{km}$  → 11,340円 ----- ①  
① 11,340円

イ.  $732.9 + 27.8 + 151.5 = 912.2\text{km}$  → 11,340円 ----- ①  
240円 ----- ②  
(①+②) 合計 11,580円

ウ.  $732.9 + 27.8 = 760.7\text{km}$  → 10,500円 ----- ①  
151.5km → 2,520円 ----- ②  
(①+②) 合計 13,020円

エ.  $732.9 + 27.8 = 760.7\text{km}$  → 10,500円 ----- ①  
151.5km → 2,520円 ----- ②  
240円 ----- ③  
(①+②+③) 合計 13,260円

(2) 料金算出方法で正しいものはどれか。

ア.  $(3,660 - 510) + 6,300 = 9,450$ 円 ----- ①  
 $2,290 \div 2 = 1,145$ 円 → は数整理 → 1,140円 ----- ②  
(①+②) 合計 10,590円

イ.  $3,660 + 6,300 = 9,960$ 円 ----- ①  
 $2,290 \div 2 = 1,145$ 円 → は数整理 → 1,140円 ----- ②  
(①+②) 合計 11,100円

ウ.  $(3,660 - 510) + 6,300 = 9,450$ 円 ----- ①  
2,290円 ----- ②  
(①+②) 合計 11,740円

エ.  $3,660 + 6,300 = 9,960$ 円 ----- ①  
2,290円 ----- ②  
(①+②) 合計 12,250円

2. 大人2名が1泊で温泉地へ旅行を実施した。資料に基づき、宿泊地のホテルに支払った費用の算出方法で正しいものを1つ選びなさい。

〈資料〉

使用する部屋は1室、朝食及び夕食は2名とも飲食したものとする。

基本宿泊料（室料、ツインタイプ）	1室当たり	18,000円
夕食代	1人当たり	5,000円
朝食代	1人当たり	2,300円
入湯税	1人当たり	150円

(注) このホテルのサービス料は10%である。

また、上記の基本宿泊料等の額には、消費税は含まれていない。

なお、地域における特殊な諸税については考慮しないものとする。

ア.  $18,000 \times 1 = 18,000$ 円 ----- ①  
 $\{5,000 + (5,000 \times 0.1) + 2,300 + (2,300 \times 0.1)\} \times 2 = 16,060$ 円 ----- ②  
 $150 \times 2 = 300$ 円 ----- ③  
 $(① + ② + ③) \times 0.05 = 1,718$ 円 ----- ④  
(① + ② + ③ + ④) 合計 36,078円

イ.  $\{18,000 + (18,000 \times 0.1)\} \times 1 = 19,800$ 円 ----- ①  
 $(5,000 + 2,300) \times 2 = 14,600$ 円 ----- ②  
 $(① + ②) \times 0.05 = 1,720$ 円 ----- ③  
 $150 \times 2 = 300$ 円 ----- ④  
(① + ② + ③ + ④) 合計 36,420円

ウ.  $\{18,000 + (18,000 \times 0.1)\} \times 1 = 19,800$ 円 ----- ①  
 $\{5,000 + (5,000 \times 0.1) + 2,300 + (2,300 \times 0.1)\} \times 2 = 16,060$ 円 ----- ②  
 $(① + ②) \times 0.05 = 1,793$ 円 ----- ③  
 $150 \times 2 = 300$ 円 ----- ④  
(① + ② + ③ + ④) 合計 37,953円

エ.  $\{18,000 + (18,000 \times 0.1)\} \times 1 = 19,800$ 円 ----- ①  
 $\{5,000 + (5,000 \times 0.1) + 2,300 + (2,300 \times 0.1)\} \times 2 = 16,060$ 円 ----- ②  
 $150 \times 2 = 300$ 円 ----- ③  
 $(① + ② + ③) \times 0.05 = 1,808$ 円 ----- ④  
(① + ② + ③ + ④) 合計 37,968円

**3. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。**

- (1) 旅行者は、8月22日出発予定の旅行代金10万円の本邦内の募集型企画旅行を申し込んだが、自己都合により8月20日に旅行契約を解除した。この場合、取消料の最高額はいくらか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

ア. 0円                      イ. 2万円                      ウ. 3万円                      エ. 4万円

- (2) 旅行者は、8月22日出発予定の旅行代金10万円の本邦内の募集型企画旅行を申し込んだが、契約書面に定められた8月15日になっても確定書面が交付されなかったため、その翌日旅行者に旅行契約の解除を申し入れた。この場合の取消料はいくらか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

ア. 0円                      イ. 2万円                      ウ. 3万円                      エ. 4万円

- (3) 貸切バスに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注) 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款によるものとする。

ア. 午前10時出発が午前10時30分を過ぎても旅客が自己の都合により乗車についての意思表示をしなかったため、運送契約に係る運送の全部が終了したものとみなし、バス会社は、収受した運賃・料金の払戻しをしない。

イ. 運賃及び料金は、乗車時において地方運輸局長に届け出ているものによる。

ウ. 契約責任者は、配車日の7日前までに所定の運賃・料金全額をバス会社に支払わなければならない。

エ. 最初の目的地到着後、バスが故障し、運行を中止した。この場合バス会社は、運行を中止した区間に係る運賃及び料金の払戻しをする。

- (4) フェリーに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注) フェリー標準運送約款によるものとする。

ア. 指定制の座席又は寝台を1人で使用する場合を除いて、1歳未満の小児の運賃及び料金は無料とする。

イ. 重量の和が30キログラム以下の手回り品の料金は無料とする。

ウ. 旅客が使用する車椅子の料金は無料とする。

エ. 運賃及び料金には、旅客の食事代金は含まれていない。

(5) 次の空港名と空港コードについて該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

① 中部国際空港（セントレア）の空港コードはどれか。

ア. C T S    イ. M S J    ウ. N G O    エ. N G S

② 秋田空港の空港コードはどれか。

ア. A K J    イ. A O J    ウ. A S J    エ. A X T

③ 佐賀空港の空港コードはどれか。

ア. H A C    イ. H K D    ウ. H N A    エ. H S G

④ 宮古空港の空港コードはどれか。

ア. M M B    イ. M M J    ウ. M M Y    エ. M Y E

(6) 国内航空2社（日本航空・全日空）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

（注）国内旅客運送約款によるものとする。

ア. 航空券は、券面上に記載された本人のみしか使用できないが、航空引換証は第三者に譲渡できる。

イ. 旅客運賃または料金の払戻しは、当該航空券または航空引換証と引換えにその有効期間満了後10日以内に限り行うことができる。

ウ. 委託手荷物は、旅客1人につき3個までで、持込手荷物を含めた総重量20キログラムまで無料である。

エ. 果物ナイフは、機内持込手荷物として機内に持ち込むことができる。

(7) J Rにおいて、在来線普通列車の普通車自由席に乗車する場合の乗車券に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

ア. 小学校1年生（満6歳）1人に幼稚園児（満6歳）2人が同行する場合、購入する必要があるのは、小児乗車券1枚である。

イ. 小学校6年生（満12歳）2人で乗車する場合、購入する必要があるのは、大人乗車券2枚である。

ウ. 中学生（満12歳）1人に幼稚園児（満6歳）3人が同行する場合、購入する必要があるのは、大人乗車券1枚及び小児乗車券2枚である。

エ. 大人1人に小学校6年生（満12歳）1人が同行する場合、購入する必要があるのは、大人乗車券1枚である。



(8) JRの特急料金の乗継割引に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

なお、いずれも最初の列車の乗車日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。また、特急料金は通常期の指定席特急料金の額とする。

ア. 福井駅  $\xrightarrow{\text{しらさぎ}}$  米原駅  $\xrightarrow{\text{ひかり}}$  東京駅  $\xrightarrow{\text{わかしお}}$  安房鴨川駅  
在来線特急 (特急料金1,660円) 東海道新幹線 在来線特急 (特急料金1,810円)

◇しらさぎ及びわかしおに割引が適用される。

イ. 京都駅  $\xrightarrow{\text{ひかり}}$  博多駅  $\xrightarrow{\text{リレーつばめ}}$  新八代駅  $\xrightarrow{\text{つばめ}}$  鹿児島中央駅  
東海道・山陽新幹線 在来線特急 九州新幹線

◇リレーつばめに割引が適用される。

ウ. 札幌駅  $\xrightarrow{\text{北斗}}$  函館駅  $\xrightarrow{\text{白鳥}}$  八戸駅  $\xrightarrow{\text{はやて}}$  仙台駅  
在来線特急 在来線特急 東北新幹線

◇北斗及び白鳥に割引が適用される。

エ. 長崎駅  $\xrightarrow{\text{かもめ}}$  博多駅  $\xrightarrow{\text{のぞみ}}$  名古屋駅  $\xrightarrow{\text{(ワイドビュー)しなの}}$  松本駅  
在来線特急 (特急料金2,180円) 東海道・山陽新幹線 在来線特急 (特急料金2,610円)

◇(ワイドビュー)しなのに割引が適用される。

4. 次の各観光地とJRの主要な最寄り駅の組み合わせのうち、最寄り駅が所在する路線名を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 昇仙峡 — 甲府駅 —

(2) 高千穂峡 — 延岡駅 —

(3) 中尊寺 — 一ノ関駅 —

(4) 道成寺 — 御坊駅 —

(5) 偕楽園 — 水戸駅 —

(6) 青海島 — 長門市駅 —

(7) 兼六園 — 金沢駅 —

〔語 群〕

- |         |         |         |          |         |
|---------|---------|---------|----------|---------|
| ア. 函館本線 | イ. 東北本線 | ウ. 常磐線  | エ. 東海道本線 | オ. 中央本線 |
| カ. 信越本線 | キ. 北陸本線 | ク. 高山本線 | ケ. 関西本線  | コ. 紀勢本線 |
| サ. 山陽本線 | シ. 山陰本線 | ス. 日豊本線 | セ. 鹿児島本線 |         |

5. 次の祭・行事の開催月について、 に該当する答を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

(祭り・行事) (開催月) (都道府県)  
 (1) チャグチャグ馬コ —  — 岩手県

(2) 三社祭 —  — 東京都

(3) おわら風の盆 —  — 富山県

(4) 若草山焼き —  — 奈良県

〔語 群〕

- |       |       |       |        |        |        |
|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| ア. 1月 | イ. 2月 | ウ. 3月 | エ. 4月  | オ. 5月  | カ. 6月  |
| キ. 7月 | ク. 8月 | ケ. 9月 | コ. 10月 | サ. 11月 | シ. 12月 |

6. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 次の温泉地と郷土料理（郷土食）の組み合わせのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

(温泉地)		(郷土料理・食)
ア. 男鹿温泉	——	きりたんぼ鍋
イ. 宇奈月温泉	——	ほたるいか料理
ウ. 伊香保温泉	——	野沢菜漬
エ. 由布院温泉	——	関サバ、関アジ

(2) 次の民芸品と観光地の組み合わせのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

(民芸品)		(観光地)
ア. 大館曲げわっぱ	——	五稜郭
イ. 赤べこ	——	鶴ヶ城
ウ. 越前竹人形	——	永平寺
エ. ビードロ	——	グラバー園

(3) 次の民芸品と観光地の組み合わせのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

(民芸品)		(観光地)
ア. 西陣織	——	平安神宮
イ. 芭蕉布	——	首里城
ウ. 黄八丈	——	浅草寺
エ. 伊予絣	——	金刀比羅宮

7. 次の峠と、そこから眺められる湖または山岳について、 に該当する答を下記の語群からそれぞれ1つ選びなさい。

- | (峠)           |   | (湖または山岳)             |
|---------------|---|----------------------|
| (1) 仁田峠 (長崎県) | — | <input type="text"/> |
| (2) 美幌峠 (北海道) | — | <input type="text"/> |
| (3) 発荷峠 (秋田県) | — | <input type="text"/> |

[語群]

- |         |        |         |         |
|---------|--------|---------|---------|
| ア. 昭和新山 | イ. 石鎚山 | ウ. 普賢岳  | エ. 中禅寺湖 |
| オ. 屈斜路湖 | カ. 田沢湖 | キ. 十和田湖 |         |

8. 次の記述について、 に該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 霧島屋久国立公園の薩摩半島最南端にある  は、開聞岳を望み、近くには砂むし風呂で有名な指宿温泉がある。

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| ア. 長崎鼻 | イ. 佐田岬 | ウ. 都井岬 | エ. 辺戸岬 |
|--------|--------|--------|--------|

(2)  古戦場は、武田信玄と上杉謙信が激しい戦いを繰り広げた場所である。同古戦場を望む千曲川堤防の脇には軍師山本勘助の墓がある。

- |       |        |        |        |
|-------|--------|--------|--------|
| ア. 長篠 | イ. 桶狭間 | ウ. 関ヶ原 | エ. 川中島 |
|-------|--------|--------|--------|

(3) 武家屋敷や白壁の旧家が並び、山陰の小京都と呼ばれる小さな城下町である  は、作家森鷗外の生地としても知られ、掘り割りの鯉が有名である。

- |      |       |        |       |
|------|-------|--------|-------|
| ア. 萩 | イ. 松江 | ウ. 津和野 | エ. 鳥取 |
|------|-------|--------|-------|

(4) 2009年に開港150周年を迎える  は、開港以来、商業貿易都市として発展し、さらに工業都市としても歩んできた。現在では、外人墓地、中華街の他に赤レンガ倉庫やみなとみらい21等の新旧観光スポットが融合している港街である。

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| ア. 函館 | イ. 横浜 | ウ. 神戸 | エ. 長崎 |
|-------|-------|-------|-------|

**9. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。**

(1) 中禅寺湖の水が断崖を一気に落下する姿は圧巻で、日本三大名瀑のひとつと言われている。堅い岩盤をくり抜いて造ったエレベーターを使えば間近に観察できる。

ア. 華厳滝      イ. 竜頭滝      ウ. 浄蓮の滝      エ. 白糸の滝

(2) 熊野川の支流に位置し、原生林が生い茂る峡谷で、ウォータージェット船に乗って秘境の美しさを見学できる。

ア. 寸又峡      イ. 耶馬溪      ウ. 瀨峡      エ. 保津峡

(3) 数少ない海の国立公園でリアス式海岸と呼ばれる複雑に入り組んだ海岸線を形成しており、1年を通して気候は温暖である。英虞湾を中心に真珠の養殖が有名である。

ア. 陸中海岸国立公園      イ. 伊勢志摩国立公園      ウ. 瀬戸内海国立公園      エ. 西海国立公園

**10. 「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に関し、世界遺産(文化遺産)の登録に含まれていない建造物を選択肢の中から1つ選びなさい。**

ア. 厳島神社      イ. 日光東照宮      ウ. 法隆寺      エ. 出雲大社

**〈以 上〉**